

外国語科

外国語科について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 適切な場面設定のもと、習得した知識・技能を活用しながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）における言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 具体的な課題等が設定され、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、生徒が主体的・対話的に学ぶことができるとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 4 国際社会において相手の立場を尊重するため、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）において、その場で考え判断しながら相手と話すなどの対話的な活動や、複数領域を統合的に活用して行う言語活動が適切に取り上げられていること。
- 5 外国語を用いて何ができるようになるのかを意識した学習に取り組めるよう、外国語の使用を基本とした実際のコミュニケーション場面を想定した授業や活動に取り組みやすいとともに、日常的・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちを積極的に表現しようとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

外国語科

調査研究の結果の概要

■東京書籍「NEW HORIZON English Course 1」「NEW HORIZON English Course 2」 「NEW HORIZON English Course 3」

巻頭の各単元における学習目標と巻末の小学校から高等学校までの学びを見通した CAN-DO リストの評価が一致するよう工夫されており、生徒が中学校での到達目標に焦点化した学習に取り組みやすい。また、各ステージでの目標への到達度や学習成果、課題を整理し、次のステージで取り組むべきことを生徒自身が見通しを持つことができるよう工夫されているなど、優れている。

各単元の「扉」では、生徒の主体的な学習への動機づけとするため、単元を貫く問い、学習到達目標と取り組むべき言語活動が示されているとともに、各単元には、目的、場面、状況を連想させる活動から始まり、伝える相手を意識しながら、ペアやグループで協働して取り組む活動が豊富に用意されている。また、新出表現の使用場面を想定しながら、コミュニケーション活動を行う「Preview」、複数の発問によって、生徒が段階的に理解を深め、情報を整理しながら表現活動を行う「Read and Think」、段階的に思考を働かせて発信活動を行う「Mini Activity」や「Unit Activity」などが設定されるなど、よく工夫されている。

学期末に取り組む「Stage Activity」では、イラストを使って生徒の活動の姿が見えるよう工夫されているとともに、複数領域を統合的に活用して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた多様な言語活動が用意されており、また、各単元の「Mini Activity」から「Unit Activity」、さらに各学期末に取り組む「Stage Activity」へと段階的に学習に取り組むことで、習得した知識・技能を総合的に活用して、生徒が発展的な言語活動に取り組めるよう工夫されており、系統的・発展的な学習の充実においても優れている。

小学校外国語科との接続については、1年生において、小学校で学んだ表現を活用する活動が用意されていたり、小学校で学習したことが視覚的に示されていたりするなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

■開隆堂「SUNSHINE ENGLISH COURSE 1」「SUNSHINE ENGLISH COURSE 2」 「SUNSHINE ENGLISH COURSE 3」

各単元の「とびら」には、到達目標が示されており、「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」のページには、何が身に付いたのか自己評価するチェック欄が設定されている。また、巻末の5領域別にまとめられた「英語で『できるようになったこと』リスト」(CAN-DO リスト)において、領域別に英語を活用して「できること」が、生徒自身で繰り返し把握できるとともに、自分が身に付けたことの過程が具体的にわかるよう工夫されており、優れている。

各単元には、どのような目的、場面、状況で使われるのかなどの具体的な場面を表すイラストを見ながら、新出表現をわかりやすく理解することができる「Scenes」、本文の内容を推測して答える推量発問や題材を活用して答える発問が設定され、題材において思考したことを表現する「Think」、設定された目的や場面等に応じて対話的に課題解決に取り組む活動を用意する「Interact」、単元の内容を整理して発信する活動に取り組む「Retell」等、生徒が主体的・対話的

な学びを通して、概要や要点を捉える力、事実や考えを整理して発信する力を身に付けられるよう工夫されている。

学期末に取り組む「Our Project」では、生徒自身が作成したメモをもとに即興でやり取りし、その後、やり取りした内容をもとに原稿を書くといった領域を統合した言語活動が課題として設けられており、生徒が即興性と正確性も意識した活動に取り組めるよう工夫されている。また、「Our Project」と小単元「Steps」や各単元の「Interact」とを関連付けて、5つの領域を統合的に活用し、習熟度に応じて段階的に難易度を上げながら、最終的には社会的な課題に対して、生徒が英語を用いて自分の言葉で発信する発展的な活動が用意されるなど、優れている。

小学校外国語科との接続については、1年生において、小学校で学習した内容を用いて友だちにインタビューしたり、やり取りしたりする活動が用意され、生徒が積極的に対話を行い、コミュニケーションを楽しめるよう工夫されている。

■三省堂「NEW CROWN English Series 1」「NEW CROWN English Series 2」

「NEW CROWN English Series 3」

各単元で、言語材料と言語活動が関連付けられるなど、体系的な配列が工夫されているとともに、「とびら」では、新出の言語材料や単元で取り組む学習活動が提示されており、生徒が学習の見通しを立てやすい。また、巻末には、CAN-DO リストが掲載され、1年間で学んだことを振り返ることができるよう工夫されている。

また、各単元では、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう、冒頭の「GET」では、言語を使用する場面や状況等がわかりやすく示されているとともに、「USE」では、既習の文法事項を活用して、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある内容を読んだり、話したり書いたりする活動が用意されている。また、題材に一貫性を持たせて、テーマ設定やゴールに至るまでのステップが細かく設定されるなど、生徒が主体的に考えて継続して学習に取り組めるよう工夫されている。

また、各単元末の「USE Write」「USE Speak」では、単元で学んだ内容を生かして振り返る活動が用意されているとともに、巻末の「What Can I Do?」（CAN-DO リスト）では、単元での学びを振り返りながら、生徒自身が学びの成果と課題が確認できるよう工夫されている。さらに、実際のコミュニケーション場面を想定した活動を通して、生徒が学習した表現を活用することで実感を高められるコーナー「Take Action!」に加え、学期末に取り組む「Project」では、聞くこと、読むことの活動に取り組んだ後、その学習内容について話すこと、書くことの活動や書いたことをもとに発表したりする活動に取り組む課題が用意されており、生徒が自分の考えを整理しながら、発信する力を身に付けられるよう工夫され、優れている。

小学校外国語科との接続については、1年生において、アルファベットや語彙が確認でき、小学校での学習と類似した場面等の言語活動が用意されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

■教育出版「ONE WORLD English Course 1」「ONE WORLD English Course 2」

「ONE WORLD English Course 3」

関連性のある言語材料を同じ単元や連続した単元で扱うなど、系統的な配列が工夫されている。

各パートの「Goal」では、どのような状況で新出表現を使用するのかが示されており、また特定の場面でよく使われる表現については、「Useful Expressions」のページで生徒同士がやり取りする形式で学習を進められるよう工夫されている。また、各単元末に設定されている「Lesson を振り返ろう」では、生徒が自分で学習到達度を把握するための到達目標が設定されているとともに、巻末の「CAN-DO 自己チェックリスト」(CAN-DO リスト)では、3年間の領域別の到達目標に該当する単元が示されており、長期的な見通しの中で、生徒がその単元の学習がどのように位置付けられているか確認し、その都度「できるようになったこと」を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

各パートの「Think & Try」では、読んで理解したことについて、自分の意見や考え、感想を述べたりするなど、場面設定の中で生徒が主体的に思考を働かせて、対話的に話すことや書くことに取り組むための活動が用意されている。また、各パートで本文の概要を把握する「Question」、単元の題材や言語材料を多面的に理解するための「Review」など、領域ごとの言語活動はバランスよく設定されているものの、活動相互のつながりが弱く、生徒が複数領域を統合して活用するための工夫としては十分ではない。さらに、各学期末の「Project」では、発表に対して即興で質問や感想をやりとりするなど、5領域を活用した言語活動に取り組む課題が設定されているが、理解した内容をもとに発信する手立てが見られない。

小学校外国語科との接続については、1年生において、「聞くこと」で理解できたことを書きとめる活動から始めるなど、音声から内容を理解できるよう構成され、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

■光村図書「Here We Go! ENGLISH COURSE 1」「Here We Go! ENGLISH COURSE 2」 「Here We Go! ENGLISH COURSE 3」

教科書全編が、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの流れで統一されているとともに、3年間でひとつの物語となる構成となっている。絵や写真から題材への興味付けを行い、ストーリーを推測しながら、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの流れでスパイラルに語彙・表現を学習できるよう系統的に言語材料が配置されており、生徒が見通しをもって言語材料や語彙を習得できるとともに、実生活や実社会に即した場面や素材が豊富に扱われており、生徒が自然な形で、目的や場面等を把握しながら、学習を進めることができる点で優れている。

また、巻頭及び各単元の「扉」には、学習到達目標と学習の流れが明示されるとともに、単元末には、学習到達度を把握するための振り返りが用意されている。さらに、巻末の CAN-DO リストでは、領域別の到達目標に該当する単元名が示されており、相互に関連付けなら、生徒自身が俯瞰的に到達度や学習を振り返られるよう工夫されており、優れている。

各単元末には、題材に関して理解したことを自分なりに発信・表現する活動が「Think」「Goal」として用意されている。また、各学期末には、学んだ知識・技能を活用しながらグループで協力して課題に取り組む活動や、相手に伝わるようにするための改善点を考える視点や複数の領域を統合的に活用して、グループで取り組む課題が設定されている「You Can Do It!」、主体的に言語活動に取り組むための手法が紹介される「Your Coach」など、外国語によるコミュニケーション力を高めながら、生徒が主体的・対話的な学習を進めるための手立てが豊富で、学びが深まるよう工夫されており、優れている。

小学校外国語科との接続については、小学校で学習した基本表現を復習する「Let's Be Friends!」

など、1年生では、各単元で視覚資料が効果的に配置され、音声から内容を理解した後、視覚的に文字に慣れていくことができるようよう構成されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

■啓林館「BLUE SKY English Course 1」「BLUE SKY English Course 2」

「BLUE SKY English Course 3」

生徒にとって身近な話題と言語材料を関連付けて、英語学習への自然な導入を図ったうえで、言語材料への慣れ親しみから、知識・技能の習得、活用という学習過程が系統的に整理されており、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。

各単元の「扉」では、単元の題材テーマの深い理解への手立てとなる写真と質問が用意されているとともに、単元・パート別に学習到達目標が明示されるなど、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。また、巻末の CAN-DO リストには、生徒自身で学習事項の振り返りと自己評価が行えるよう工夫されている。

全体を通して、目的や場面、状況に応じて、即興で話したり、話したことを書いたりする活動が適宜用意されているなど、生徒が主体的・対話的に取り組む意欲を高められるよう工夫されているものの、各単元のテーマに沿った短い文章をつくり発表する「Express Yourself」は、生徒が発信活動に取り組む際の手立てや工夫がほぼみられず、生徒にとって使いづらい。各学期末の「Project」は、協働で取り組む課題設定や活動のバリエーションが少ないなど、手立てが十分でない。また、「読む」活動では、内容理解に関する質問や発信につながる発問が用意されているが、生徒が概要や要点を捉えるための工夫や手立てが少なく、不十分である。「聞く」活動では、内容に対する発問が多く、表現することを意識した活動につなげるための工夫が弱く、即興的な対話活動についても、対話を広げるための工夫が示されておらず、即興的なやり取りを継続して行うための工夫としてやや弱いなど、コミュニケーション能力を高める手立てが不十分である。

小学校外国語科との接続については、1年生「Let's Start」は、小学校で学習した語彙や表現などを振り返る内容になっており、また、小学校での思い出や中学校生活での期待などについて話す活動が、適宜設定されるなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		東京書籍	開隆堂	三省堂	教育出版	光村図書	啓林館
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること	1	言語材料の配列・系統性の工夫	○	○	○	○	○	○
		2	単元等の学習計画やCAN-DOリスト形式の学習到達目標の明示	◎	◎	○	○	◎	○
		3	言語材料の理解を深める工夫	○	○	○	○	○	○
2	適切な場面設定のもと、習得した知識・技能を活用しながら、生徒が5領域(聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くこと)における言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること	1	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等の明確化・必然性の工夫	◎	○	◎	○	◎	○
		2	題材への理解を深め、概要や要点をとらえる活動の工夫	◎	○	○	△	○	△
		3	情報を整理しながら考えなどを形成し表現する活動の工夫	○	○	◎	○	◎	△
3	具体的な課題等が設定され、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、生徒が主体的・対話的に学ぶことができるとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること	1	外国語を用いて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながる工夫	○	○	○	○	○	○
		2	主体的・対話的で深い学びにつながる工夫	◎	○	○	○	◎	△
		3	多様な感じ方や考え方に接し、新しい捉え方や考え方に気付くための工夫	○	○	○	○	○	○
4	国際社会において相手の立場を尊重するため、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、生徒が5領域(聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、書くこと)において、その場で考え判断しながら相手と話すなどの対話的な活動や、複数領域を統合的に活用して行う言語活動が適切に取り上げられていること	1	外国語の文化的背景等の理解を深めるための工夫	○	○	○	○	○	○
		2	即興性を意識した言語活動に取り組むための工夫	○	○	○	○	○	△
		3	複数領域を統合的に活用した言語活動に取り組むための工夫	◎	○	◎	△	○	△
5	外国語を用いて何ができるようになるのかを意識した学習に取り組めるよう、外国語の使用を基本とした実際のコミュニケーション場面を想定した授業や活動に取り組むやすいとともに、日常的・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちを積極的に表現しようとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること	1	外国語使用を基本とした授業を行うための工夫	○	○	○	○	○	○
		2	日常的・社会的な話題を題材として言語活動に取り組む工夫	○	○	○	○	○	○
		3	CAN-DOリスト形式の学習到達目標を活用するための工夫	◎	◎	○	○	◎	○
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察するための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること	1	人権教育の推進	○	○	○	○	○	○
		2	道徳教育の推進	○	○	○	○	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること	1	単元構成の系統性・発展性	◎	◎	○	○	○	○
		2	他教科や教育課題等との関連	○	○	○	○	○	○
		3	他校種との接続	○	○	○	○	○	○
		4	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすい工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること	1	文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○	○	○	○	○
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○	○	○	○	○
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○	○	○	○	○
		4	用紙、インク等の環境面への配慮	○	○	○	○	○	○

【外国語科】観点別資料

【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識・技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○全ての単元において、スパイラルな学習が行えるよう構成されているとともに、新出の言語材料は、目的や場面等に応じて、5領域の言語活動がバランスよく取り入れられているなど、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○巻頭には各単元における学習目標、巻末には小学校から中学校、高等学校までの学びを見通したCAN-DOリストが掲載されており、生徒がこれまでとこれからを意識しながら、中学校での到達目標に焦点化した学習に取り組みやすい。また、各単元の「扉」では、学習到達目標と取り組むべき言語活動が示されており、見通しをもちやすいとともに、各単元末の「Check」では、振り返りや自己評価ができるよう工夫されており、優れている。 ○各単元の「Unit Activity」等の活動を通して、知識・技能の習得と活用を繰り返しながら、生徒が言語材料への理解を深められるよう構成が工夫されている。	○全体を通して、段階的に言語材料が配列されているとともに、各単元の「Scenes」では、マンガ形式の短い対話と簡単な活動を通して、生徒の新出の言語材料への理解が促されているなど、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○各単元の「とびら」において、学習指導要領に示されている3つの資質・能力を育成するための到達目標がわかりやすく解説されており、何が身に付いたかを生徒自身で自己評価できるよう工夫されている。また、巻末の5領域別にまとめられたCAN-DOリストには、自分に身に付いたことの過程や流れが、生徒自身に具体的にわかるよう示されるなど、よく工夫されている。 ○各学年に複数回用意されている「Our Project」では、各単元で学んだ言語材料を活用しながら、複数領域を統合して課題解決に取り組む活動が用意されており、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。	○各単元で、イラストと短い対話文を用いて、目的、場面、状況等が示されるなど、言語の働きがわかりやすく提示されており、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動を通して、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○すべての単元で、言語材料と言語活動が関連付けられるなど、体系的な配列が工夫されているとともに、各単元の「とびら」では、新出の言語材料や単元で取り組むべき学習の見通しを立てやすい。また、巻末のCAN-DOリストには、1年間で学んだことを、生徒自身で振り返ることができるよう工夫されている。 ○各学年に複数設定されている「Project」では、各学期で習得した知識・技能を生かしながら、複数領域を統合して課題解決に取り組む活動が用意されており、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。	○関連性のある言語材料を同じ単元や連続した単元で扱うなど、系統的な配列が工夫されているとともに、複数の領域を活用しながら学習に取り組む「Project」が、各学年で複数回用意されているなど、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○各単元末に設定されている「Lessonを振り返ろう」では、生徒が自分で学習到達度を把握するための到達目標が設定されている。また、巻末のCAN-DOリストには、中学校3年間の学びを見通した学習到達目標に対し、一定の学習内容のまとめりと、生徒自身で達成度を確認できるよう工夫されている。 ○各単元末の「Review」等では、言語材料を多面的に理解できるよう工夫されている。また、「Activities Plus」では、赤色マスキングシートを使った活動が提案されているなど、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。	○教科書本文が3年間でひとつの物語となる構成の中で、スパイラルに語彙・表現を学習できるよう系統的に言語材料が配置されており、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○教科書全編が、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの流れで統一されており、生徒が見通しをもって言語材料や語彙を習得できるよう工夫されている。また、巻頭及び各単元の「扉」には、学習到達目標と学習の流れが示されているとともに、単元末には、学習到達度を把握するための振り返りが用意されている。さらに、巻末のCAN-DOリストで生徒自身が到達度を確認できるなど、よく工夫されている。 ○各単元に用意されている「扉」「Part」「Goal」等の活動を通して、言語材料や語彙・表現等をスパイラルに学習することで、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。	○生徒にとって身近な話題と言語材料を関連付けて、英語学習への自然な導入を図ったうえで、言語材料への慣れ親しみから、知識・技能の習得、活用という学習過程が系統的に整理されており、生徒が基礎的・基本的な知識・技能を身に付けられるよう工夫されている。 ○各単元の「扉」において、単元・パート別に、学習到達目標が示されており、生徒が見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。また、巻末のCAN-DOリストには、生徒自身で学習事項の振り返りと自己評価が行えるよう工夫されている。 ○各単元の「Express Yourself」では、テーマに沿って短い文章をつくり、グループごとに発表する活動が提案されるなど、複数領域を統合的に活用する活動に取り組みながら、生徒が言語材料への理解を深められるよう工夫されている。

言語材料：語彙、文法事項、表現など

【選定の観点２】

適切な場面設定のもと、習得した知識・技能を活用しながら、生徒が５領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）における言語活動を通して思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○各単元冒頭の「Preview」では、新出表現をどのような目的、場面、状況で使うのかを意識したり、気付いたりする活動が設定されており、生徒が言語の使用場面を想定しながら、コミュニケーション活動を行うことができるよう工夫されており、優れている。 ○全体を通して、読む活動では、概要や大意をつかみ、詳細を押さえ、最後に題材に関して自分の考えを表現するという流れで構成されている。また、各単元の「Read and Think」では、概要を掴む発問、詳細をおさえる発問、表現につなげる発問が設定されており、生徒が段階的に理解を深めたり、情報を整理しながら表現活動を行ったりできるよう工夫されており、優れている。 ○各単元の「Mini Activity」から「Unit Activity」へ、さらに学期末に取り組む「Stage Activity」に至る流れの中で、系統的に生徒が自分の考えを積み重ねながら、情報を整理し、表現することができるよう工夫されている。	○各単元冒頭の「Scenes」では、具体的な場面を表すイラストを見ながら、新出表現を学べるよう構成されており、どのような目的、場面、状況で使われるのか、生徒にとってわかりやすい。 ○各単元の「Think」では、本文の内容を推測して答える発問や、題材を活用して答える発問が設定されている。また、各単元の内容を整理して発信する活動に取り組む「Retell」や設定された目的や場面等に応じた活動に取り組む「Interact」等を通して、生徒が思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。 ○習得した知識・技能、表現等を活用して、総合的なパフォーマンス活動を行う「Our Project」など、生徒が自分の考えを形成し、表現する学習活動が適宜設定されており、表現活動の質を高められるよう工夫されている。	○各単元冒頭の「GET」では、言語を使用する場面や状況等がわかりやすく示されている。また、「Take Action!」では、実際のコミュニケーション場面を想定した活動を通して、生徒が学習した表現を活用することで、実感を高められるよう工夫されており、優れている。 ○各単元で、「GET」から「USE」という習得から活用へとつながる構成が統一して設定されており、生徒が目的や場面、状況を理解し、概要を捉えて、自分の考えを繰り返し整理したりしながら、自分の意見を発信・表現する活動が、段階的に設定されているなど、工夫されている。 ○適宜設定されている「Take Action」や「USE Write」等では、現実の使用場面におけるトピックに対して、生徒が必要な情報を整理しながら、既習の文法事項を用いて、まとまりある内容の文章を表現する活動が設定されており、優れている。	○各パートの「Goal」では、どのような状況で新出表現を使用するのかが示されており、また、特定の場面でよく使われる表現については、「Useful Expressions」のページで、生徒同士がやり取りする形式で学習を深められるよう工夫されている。 ○各パートの「Think & Try!」で、本文を活用した表現活動に取り組めるよう工夫されている。また、各パートの「Question」で、本文の概要を把握し、各単元の「Review」で、内容を確認するよう構成されているが、生徒が必要な情報や要点を把握するための工夫がやや弱い。 ○各単元の「Task」では、本文と異なる場面で、生徒が考えや意見を整理し、表現する力を身に付けられるよう工夫されている。また、適宜設定されている「Tips」では、各領域の言語活動に取り組む手法が紹介されるなど、表現活動の質を高められるよう工夫されている。	○４人の中学生が登場するストーリーの中で、実生活や実社会に即した場面や素材が豊富に扱われているとともに、到達目標を達成できるような教材配列が工夫されているなど、生徒が自然な形で、目的や場面等を把握しながら、学習を進めることができる点で優れている。 ○全体を通して、生徒の題材への理解を深めるため、絵や写真から題材への興味付けを行い、ストーリーを推測しながら聞いたり読んだりする活動へつなげるよう構成されている。また、各パートの学習は効果的に目標に到達できるよう、単元の概要や要点を捉えながら進められるよう工夫されている。 ○「You Can Do It!」（統合的な活動）に設定されているテーマは、発信活動を行う必然性を生徒が感じやすく、創造的に取り組みやすい。また、聞く・読むことから、対話的な学びへ段階を踏みながら、情報を整理して、発信する活動につなげられているなど、優れている。	○単元のテーマに沿って、言語の使用場面や状況が明示されていることで、生徒の理解を深め、言語使用の必然性を感じることができるよう工夫されている。また、各単元の「扉」のページの写真と質問によって、単元の題材テーマの深い理解への手立てとなっている。 ○「聞く」活動では、内容に対する発問が多く、表現することを意識した活動につなげるための工夫がやや弱い。また、「読む」活動では、内容理解に関する質問や、発信につながる発問が用意されているが、生徒が概要や要点を捉えるための工夫や手立てが少なく、不十分である。 ○各単元の「Express Yourself」で、単元で学習したことを表現活動につなげるよう工夫されているが、生徒が発信活動に取り組む際の手立てや工夫がほぼみられず、生徒にとって使いづらい。

【選定の観点3】

具体的な課題等が設定され、コミュニケーションの目的、場面、状況などを意識し、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、生徒が主体的・対話的に学ぶことができるとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○小単元の「Let's Talk」等では、実生活に即した言語活動や対話を続ける練習など、生徒が主体的に英語でのやり取りに取り組むための活動が設定されている。また、「学び方コーナー」では、英語学習のポイントやコツが紹介されており、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。 ○各単元冒頭の「扉」で、単元を貫く問いが設定されており、生徒の主体的な学習への動機づけとなっている。また、各単元は目的、場面、状況を連想させる活動から始まり、伝える相手を意識しながら、ペアやグループで協働して取り組む活動が豊富に用意されている。そうした対話的な活動に取り組んだ後、改めて単元冒頭の問いに向き合うことで、学びの深まりを目指すよう工夫されている。また、5領域の活動のバランスもよく優れている。 ○各単元の「Read and Think」や読み物教材「Let's Read」では、外国の文化や生活が紹介されるなど、生徒が異なる文化圏の人々の発想や考え方を知り、広い視野でものごとを捉えようとする態度を身に付けられるよう工夫されている。	○実生活に即した言語活動が設定されている「Power Up」、会話をつなげ深めるための手法や相手にわかりやすく伝えるための方法等が紹介されている「Steps」など、生徒が外国語を用いて、コミュニケーションを図ろうとする意欲を高められるよう工夫されている。 ○各単元の「Think」では、学んだことを相手にどのように伝えるのかを意識しながら題材を理解するための発問が用意されている。また、「Interact」では、対話的に課題解決に取り組む活動が用意されるなど、主体的・対話的な学びにつながるよう工夫されている。また、「Our Project」では、読んだり聞いたりした内容をもとに即興でやり取りする活動に取り組む課題が用意されるなど、生徒の深い学びにつながるよう工夫されている。 ○各単元の「Think」や「Reading」において、環境、平和、人権、共生などの現代的な課題のテーマが用意されており、生徒が多様な考え方にふれながら、課題解決に向けて主体的に行動することの大切さを意識できるよう工夫されている。	○各学年の巻頭に、ことばについて「使う・関わる・考える・学ぶ」の4つの視点で特集が設定されており、生徒の外国語を用いることへの興味を高めている。また、小単元の「Take Action!」では、実生活に即した言語活動が設定され、外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。 ○各単元の「USE」では、既習の文法事項を活用して、目的や場面、状況に応じて、まとまりのある内容を読んだり、話したり書いたりする活動が用意されている。また、題材に一貫性を持たせて、テーマ設定やゴールに至るまでのステップが細かく設定されるなど、生徒が主体的に継続して学習に取り組めるよう工夫されている。 ○各単元の「GET Read」や読み物教材「Reading for fun」では、狂言や童話、科学的読み物など、社会的・文化的・歴史的に多様な題材が取り上げられており、生徒が題材を通して新しい考えに気付けるよう工夫されている。	○小単元の「Tips」では、実生活に即した言語活動や外国語習得のコツが取り上げられている。また、巻末資料では、円滑な会話に向けた語彙や表現の参照一覧が用意されているなど、生徒の外国語を用いたコミュニケーションを図ろうとする意欲を高められるよう工夫されている。 ○各パートの「Think & Try」では、読んで理解したことについて、自分の意見や考え、感想を述べたりするなど、場面設定の中で生徒が主体的に思考を働かせて、対話的に話すことや書くことに取り組むための活動が用意されている。また、各学期末の「Project」では、発表に対して即興で質問や感想をやり取りする課題が用意されるなど、生徒が主体的・対話的に取り組めるよう工夫されている。 ○各パートの「Reading」では、様々な文化的・歴史的背景が題材として取り上げられるなど、生徒が文化の多様性や新しい捉え方・感じ方に気付くことができるよう工夫されている。	○各単元がストーリー仕立てでつながっており、生徒は展開を楽しみながら読み通すことができるとともに、登場人物への共感を高められるよう工夫されている。また、小単元の「Daily Life」では、実生活に即した言語活動が設定されており、生徒の外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。 ○各単元末に、題材に関して自分の言葉で発信する活動「Think」「Goal」が用意されている。また、各学期末には、習得した知識・技能を活用しながら、グループで協力して課題に取り組む活動や相手に伝わるようにするための改善点を考える視点が示されている「You can do it」、さらに、主体的に言語活動に取り組むための手法が紹介されている「Your Coach」など、生徒が主体的・対話的な学習を進めるための手立てが豊富で学びが深まるよう工夫されており、優れている。 ○各単元の「Goal」や小単元「You Can Do It!」「World Tour」等には、世界の中学生の声や世界で実際に活躍する人などの発言や行動を紹介する教材が用意されており、生徒が多様な考え方に触れ、新しい考え方に気付くよう工夫されている。	○本文の多くが対話形式で、生徒が実際のコミュニケーション場面を意識しやすいとともに、各単元の「Let's Talk」「Let's Listen」では、実生活に即した言語活動が用意されているなど、生徒の外国語を用いたコミュニケーションへの意欲を高められるよう工夫されている。 ○全体を通して、目的や場面、状況に応じて、即興で話したり、話したことを書いたりする活動が適宜用意されているとともに、各単元のテーマに沿った短い文章をつくり発表する「Express Yourself」など、生徒が主体的・対話的に取り組む意欲を高められるよう工夫されているものの、各学期末の「Project」では、協働で取り組む課題設定や活動のバリエーションが少ないなど、手立てが十分でない。 ○各単元の「Read & Think」や読み物資料「Let's Read」では、多様な国や歴史的・文化的・社会的背景のある人物に焦点を当てた題材が用意されており、生徒が世界とのつながりや、多様な感じ方や考え方に触れられるよう工夫されている。

【選定の観点4】

国際社会において相手の立場を尊重するため、外国語やその背景にある文化に対する理解を深め、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、生徒が5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くこと）において、その場で考え判断しながら相手と話すなどの対話的な活動や、複数領域を統合的に活用して行う言語活動が適切に取り上げられていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○小単元の「Let's Listen」「Let's write」では、英語特有の表現や文構成を意識した聞き取りや作文に取り組む活動が用意されており、生徒が外国語の文化的背景や考え方を知り、広い視野でものごとを捉える力を身に付けられるよう工夫されている。 ○各単元の「Read and Think」では、即興で話したり書いたり、複数領域を統合的に活用するための言語活動が取り入れられている。また「Let's talk」では、既習表現を活用しながら、生徒が即興性を意識した対話的な活動に取り組めるよう工夫されている。 ○各単元の「Mini Activity」や「Unit Activity」では、段階的に思考を働かせて行う発信活動が設定されている。また、学期末に取り組む「Stage Activity」では、イラストを使って生徒の活動の姿が見えるよう工夫されているとともに、複数領域を統合的に活用して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた多様な言語活動が用意されているなど、優れている。	○パフォーマンス活動に役立つ技能が紹介される「Steps」では、文章の構成やディベートの進め方、相手を意識したメモの取り方など、生徒が異なる文化における発想や考え方について理解を深められるよう工夫されている。 ○各単元の「Try」「Interact」や小単元「Steps」「Power-Up」等では、社会にみられる自然な場面設定で、新出の言語材料を活用したペアやグループでの即興的なやり取りが提案されており、生徒が対話的な活動に取り組みやすい。 ○学期末に取り組む「Our Project」では、生徒が自身で作成したメモをもとに即興でやり取りし、その後、やり取りした内容をもとに、原稿を書くといった領域を統合した言語活動が設けられており、生徒が即興性と正確性を意識した活動に取り組めるよう工夫されている。	○各単元の「Note」「Tips for Reading」では、題材の文化的な背景や外国語使用のコツなどが取り上げられており、生徒が外国語と向き合い、外国語の持つ文化性を意識しながら、コミュニケーションを図ることができるよう工夫されている。 ○小単元の「Take Action!」では、相手とよい関係を築くため、目的を達成するため、議論を深めるためなど、目的、場面、状況を意識して、即興でのやり取りを積み重ねる課題が提案されており、生徒が英語を活用する力を無理なく身に付けられるよう工夫されている。 ○学期末に取り組む「Project」では、聞くこと、読むことの活動に取り組んだ後、その学習内容について話すこと、書くことの活動や、書いたことをもとに発表する活動に取り組む課題が用意されており、生徒が自分の考えを整理しながら、発信する力を身に付けられるよう工夫され、優れている。	○小単元の「Tips」では、英語の文構成や手紙の書き方、ディベートの例などとともに、英語使用のコツが示されているなど生徒が、異なる文化の発想や考え方について理解を深められるよう工夫されている。 ○各パートの「Think & Try」には、本文の内容に関連させながら、自由なやり取りに発展させる即興性を意識した言語活動が設定されている。また、巻末の「Activity Plus」では、赤色マスキングシートを用いて、生徒が即興で話す力を高められるよう工夫されている。 ○学期末に取り組む「Project」では、5領域を活用した言語活動に取り組む課題が設定されているが、理解した内容をもとに発信する手立てが見られない。また、各単元のパートでは、領域ごとの言語活動はバランスよく設定されているものの、活動相互のつながりが弱く、生徒が複数領域を統合して活用するための工夫としては十分ではない。	○教材「World Tour」を通して、外国語の背景にある多様な文化や価値観の理解を深められるよう工夫されている。また、「Your Coach」や「Tips for Reading」では、手紙、ディベートなど、言語に関する題材が多く取り上げられており、生徒が外国語の持つ文化的背景の理解を深められるよう工夫されている。 ○各単元内の表現活動や「Goal」「You Can Do It!」など、即興での表現活動が各所に設定されている。また、巻末とじ込みの「Let's Talk」では、即興的なやり取りの教材が用意されており、生徒が繰り返し取り組むことができるよう工夫されている。 ○各単元の「Part」や「Goal」では、理解したことを表現につなげる言語活動が設定されている。また、学期末に取り組む「You Can Do It!」では、複数の領域を統合的に活用して、グループで取り組む課題が設定されており、生徒が外国語によるコミュニケーション力を高めることができるよう工夫されている。	○各単元の「Notes」では、題材の背景に関する知識や言語使用についての補足説明が用意されており、また、「Further Study」では、ディスカッションや文構成を意識した作文に取り組む活動が設定されているなど、生徒が外国について知ったり、文化を比較したりできるよう工夫されている。 ○各単元の「Let's Talk」「Targetのまとめ」「Let's Try」等で、即興的な対話活動が設定されているが、対話を広げるための手立てが示されていない。また、各単元の「Use」は、パターン・プラクティスの域を出ておらず、生徒が即興的なやり取りを継続して行うための工夫としてはやや弱い。 ○学期末に取り組む「Project」では、複数の領域を統合的に活用する言語活動が設定されているものの、言語活動に取り組む際の手立てや留意点等に関する記述が少なく、生徒にとって使いづらい。

【選定の観点5】

外国語を用いて何ができるようになるのかを意識した学習に取り組めるよう、外国語の使用を基本とした実際のコミュニケーション場面を想定した授業や活動に取り組みやすいとともに、日常的・社会的な話題に関するコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちを積極的に表現しようとする態度を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○小単元「Let's Talk」「Let's Listen」で、道案内、レストラン、買い物、食品の選択など、実際の英語の使用場面が設定されており、モデル対話を参照しながら、生徒が場面や状況等に応じた表現を即興的に考えるなど、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。 ○世界の水問題、ユニバーサルデザイン、国際支援などSDGsに関連した題材が多く扱われている。また、グラフや図表、ポスター等を読み取る活動など、生徒の知的好奇心を高める多様な題材が取り上げられるなど、工夫されている。 ○各単元の「扉」で示された到達目標に対応する形で、単元末に振り返りが設定されている。また、巻頭に記載されている目標と巻末のCAN-DOリストにおける評価が一致するよう工夫されており、各ステージでの目標への到達度や学習成果、課題を整理しながら、次のステージで取り組むべきことを、生徒が見通しを持つことができるよう工夫されているなど、優れている。	○小単元「Power-Up」で、ハンバーガーショップ、道案内、レストラン、電話の会話、買ったものを交換するなど、生徒に身近な英語の使用場面を想定した活動が提示されており、英語の発話を中心とした授業づくりが行いやすいよう工夫されている。 ○「地球市民」をキーワードに、生徒の豊かな心を育む題材として、SDGs、自然環境、人工知能などの幅広い題材が取り上げられており、その題材をもとにディベートや意見交換が提案されるなど、工夫されている。 ○各単元の「とびら」で示された到達目標と「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」のページに設けられたチェック欄が対応する形で設定されている。また、巻末の「英語で『できるようになったこと』リスト」(CAN-DO リスト)は、領域別に英語を活用して「できること」が、生徒自身で繰り返し把握できるよう工夫されているなど、優れている。	○小単元「GET Plus」における即興のやり取りの中で、重要な文法事項を含む短い英文が提示されるとともに、小単元「Take Action! Talk」では、あいづち、道案内、誘い、議論を進めるといった日常風景にある寸劇を用いて、生徒が即興で英語を使用する場面が設定されるなど、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。 ○平和、自然環境、SDGs などに加え、日本の漫画・アニメ、車いすバスケットなど、生徒の興味を引きながら、知的好奇心をくすぐるような幅広い題材が取り上げられているなど、工夫されている。 ○各単元末の「USE Write」「USE Speak」では、単元で学んだ内容を生かして振り返る活動が用意されている。また、巻末の「What Can I Do?」(CAN-DO リスト)では、単元での学びを振り返りながら、生徒自身が学びの成果と課題が確認できるよう工夫されている。	○小単元「Useful Expressions」で、飲食店、校舎案内、買い物、観光案内など、日常の場面でよく使われる表現を実際に活用する活動が設定されており、また、巻末の「Activity Plus」に掲載される言語材料も活用しながら、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。 ○環境問題、平和、国際支援、SDGs など、世界と日本の関係を知るとともに、生徒の感性を高めることにつながるグローバルな課題が題材として取り上げられているなど、工夫されている。 ○巻末の「CAN-DO 自己チェックリスト」(CAN-DO リスト)では、領域別の到達目標に該当する単元が示されている。また、3年間の目標が示されていることで、長期的な見通しの中で、生徒がその単元の学習がどのように位置付けられているか確認し、その都度「できるようになったこと」を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。	○巻末の「Let's Talk!」は、学校や家庭での日常的な話題について生徒が即興でやり取りを行う場面が設定されている。また、「Daily Life」では、飲食店、電話、道案内、留守番電話など、実社会における英語使用を意識した活動が提案されるなど、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。 ○3年間の各単元がひとつのストーリー仕立てで、環境問題や平和、異文化理解、SDGs などに関連した題材も取り上げながら、自分のことから身の回りのこと、さらに社会や世界のことへと関心を広げられるよう構成が工夫されている。 ○各単元の「扉」で、領域別に到達目標が示されており、生徒が目的をもって言語活動に取り組めるよう工夫されている。また、巻頭では、学年の目標と題材名が、巻末のCAN-DO リストでは、領域別の到達目標に該当する単元名が示されており、相互に関連付けなら、俯瞰的に到達度や学習を振り返られるよう工夫されており、優れている。	○小単元「Let's Talk」「Let's Listen」で、買い物、ファーストフード店、電話の会話、道案内など、身近な英語を使用する場面が設定されている。また、発問や問題の指示文も生徒にとって無理のない範囲で、英語で表記されており、英語使用を中心とした授業づくりを行いやすいよう工夫されている。 ○環境問題、SDGs 等に加え、日本や世界で実際に今起こっていること、あるいは実在の人物や実際の出来事などが題材として取り上げられており、生徒の関心を高めながら、その題材をもとに意見交換が提案されるなど、工夫されている。 ○巻末のCAN-DO リストを活用した学習事項の振り返りと、各単元の「扉」で示されている単元及びパート別の到達目標により、生徒が見通しをもって学習を進めやすく、また、各単元・パートでの言語活動を振り返りながら、次の学びにつなげられるよう工夫されている。

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道德性を身に付けられるよう、人権教育や道德教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○ケニアを例に挙げた題材では、国を越えた支援について取り扱われるなど、生徒が国際理解、異文化尊重の精神を意識しながら取り組めるよう工夫されている。 ○環境保護や日本の伝統文化を海外へ発信する活動など、生徒の興味を引く題材が取り上げられており、生徒が公共の精神や郷土愛、国際理解について深く考えられるよう工夫されている。	○スティービー・ワンダーの信念や南アフリカ共和国の歴史が題材として取り上げられており、生徒が人種差別や正義について考えを深められるよう工夫されている。 ○プラスチックごみによる生態系への悪影響という現代的な課題やその解消のための活動を考えながら、生徒が環境問題や共生について深く考えられるよう工夫されている。	○人種差別に立ち向かったキング牧師のスピーチが題材として取り上げられており、生徒が人権の大切さや社会正義などについて考えを深められるよう工夫されている。 ○外国語が必要とされる職業の紹介や親子での街の清掃活動などが題材として取り上げられており、生徒が個性の伸長や公共の精神について、考えが深められるよう工夫されている。	○海外のニュース、生活、食事の様子や手話などが題材として取り上げられており、生徒が異文化理解や人権の大切さなどについて考えを深められるよう工夫されている。 ○日本や世界における自然科学や環境問題に関する題材が取り上げられており、生徒が生命の尊重や自然愛護、環境保全について、考えが深められるよう工夫されている。	○バリ島を例に、プラスチックごみが環境に与える問題とそれを解決するための活動が題材として取り上げられており、生徒が公共の精神や自然愛護について考えを深められるよう工夫されている。 ○読み物教材「From the Diary of Kawamoto Itsuyoshi」では、生命の尊重や国際社会の平和と発展に寄与する大切さについて、生徒が考えを深められるよう工夫されている。	○全ての人にとってやさしい社会を目指したユニバーサルデザインの話が題材として取り上げられており、生徒が公共の福祉や国際理解について考えを深められるよう工夫されている。 ○原爆と語り部に関する題材が取り上げられており、生徒が生命の尊さ、思いやり、平和、男女平等の大切さについて考えを深められるよう工夫されている。

【選定の観点 7】

系統的・発展的に学習しやすい単元構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○各単元の「Mini Activity」から「Unit Activity」、さらに各学期末の「Stage Activity」へと段階的に学習に取り組むことで、習得した知識・技能を総合的に活用しながら、生徒が発展的な言語活動に取り組めるよう工夫されており、系統的・発展的な学習の充実において優れている。 ○伝統文化や自然環境、エネルギー資源など、他教科と関連付けた題材が設定されている。また、他教科で学んだことを英語科で生かすコーナーも設定されている。 ○1年生では、Unit1からUnit5まで、小学校で学んだ表現を活用する活動が用意されていたり、小学校で学習したことが視覚的に示されていたりするなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。 ○日本文化を紹介する活動や、日本の習慣やマナーを伝える活動、自分の住む町を紹介する文を書く活動など、生徒が日本や地域のことが発信できるよう工夫されている。	○複数領域を統合的に活用する「Our Project」が、各学期末に設けられている。また、小単元「Steps」や各単元「Interact」と関連付けて、習熟度に応じて段階的に難易度を上げながら、最終的には社会的な課題に対して、生徒が英語を用いて自分の言葉で発信する発展的な活動につなげているなど、優れている。 ○日常生活だけでなく、環境、平和、人権などの現代的課題について、他教科との関連も図りながら、多様なものの見方や考え方を育むことができるよう工夫されている。 ○1年生の「Get Ready」では、小学校で学習した内容を用いて友だちにインタビューする活動など、やり取りを中心とした課題が設定されており、生徒が積極的に対話を行い、コミュニケーションを楽しめるよう工夫されている。 ○自分の住む町を海外に発信する活動や、日本と世界の文化比較、日本のポップカルチャーを紹介する題材など、日本や海外の文化を扱う題材が充実している。	○各単元は習得から活用へとつながる構成となっており、言語活動が系統的に設定されている。また、学期末に取り組む「Project」では、生徒が各単元で習得したことを生かしながら、発展的な言語活動につながるよう工夫されている。 ○SDGsに関する題材や水問題、公民権運動、古典芸能等、他教科との関連を持たせた題材を通して、現代社会の様々な課題について考えを深められるよう工夫されている。 ○1年生の「Starter」では、アルファベットや語彙を確認でき、また、単元の「聞いてみよう」「話してみよう」の活動では、小学校での学習と類似した場面、状況での言語活動が設定されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。 ○海外の学校に日本での修学旅行の行き先を提案したり、日本限定の食べ物を考えたりするなど、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。	○各単元の「Think & Try!」や「Task」と関連付けた「Project」が各学期末に配置されており、各単元で習得した知識・技能を活用しながら、生徒が自ら考え、表現する発展的な言語活動につながるよう工夫されている。 ○職場体験や世界の地理、世界の文化的伝統行事、環境問題等、他教科との関連性を持たせた様々な分野の題材が偏ることなく取り上げられるなど工夫されている。 ○1年生の単元は、「聞くこと」で理解できたことを書きとめる活動から始めるなど、音声から内容を理解できるよう構成されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。 ○学期末に取り組む「Project」で、「日本の文化紹介」や「行ってみたい名所」など、地域を意識できる課題が設定されている。また、自分の住む都道府県についての紹介文を考える活動も設定されている。	○3年間を通して、自分のことから身の回りのこと、さらに社会や世界のことへと関心を広げるストーリー構成となっている。また、各学期末に取り組む「You Can Do It!」では、各単元の「Goal」と関連付けて、生徒が習得した知識・技能を活用しながら取り組む発展的な言語活動につながるよう工夫されている。 ○世界の中学生の生の声を紹介する題材や英語の歌など、教科横断的な観点から、他教科との関連が図れるよう工夫されている。 ○小学校で学習した基本表現を復習する「Let's Be Friends!」など、1年生では各単元で視覚資料が効果的に配置され、音声から内容を理解した後、視覚的に文字に慣れていくことができるよう構成されているなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。 ○わが町の観光プランを考える活動や、自分の住む町の観光大使になって外国人観光客へ情報発信する活動が用意されるなど、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。	○各学期末の「Project」では、各単元で習得した知識・技能を活用しながら、生徒が自ら課題を見つけ、考え、判断し、行動する発展的な言語活動につなげるなど、系統的・発展的に学習に取り組めるよう構成が工夫されている。 ○「ユニークな動物の生態」など、意図的に他教科との関連性を持たせ、教科横断的な学習につなげられるよう題材の設定が工夫されている。 ○1年生「Let's Start」では、小学校で学習した語彙や表現などを振り返る内容になっており、また、小学校での思い出や中学校生活での期待などについて話す活動が、適宜設定されるなど、生徒が小中接続を意識しながら、学習に取り組めるよう工夫されている。 ○海外の学校に自分の学校や行事を紹介する活動、自分の住む町の名所・名物を紹介する活動、各地域の「ゆるキャラ」を取り上げるなど、生徒が日本や地域のことを発信できるよう工夫されている。

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名					
2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
○判型をAB判からA4判にすることで、生徒にとって、ゆとりある見やすい紙面となるよう工夫されている。	○AB判が採用され、極力文字を大きくしたり、ゆとりを持ったレイアウトにしたりするなどして、生徒が見やすくなるよう工夫されている。	○AB判が採用され、学習内容が見開き構成で統一されている。また、教材の配列をパターン化することで、生徒が学習の見通しを立てやすくなるよう工夫されている。	○AB判が採用され、統一感や一体感を意識したレイアウトで、色使いやトーンバランスにも配慮されており、生徒にも見やすい。	○AB判が採用され、横組の文字が読みやすく、紙面を視覚的に見せることで、生徒にとって使いやすくなるよう工夫されている。	○AB判が採用され、イラストや写真を効果的に掲載するとともに、行間にゆとりを持たせ、生徒にとって文章が読みやすくなるよう工夫されている。
○ユニバーサルデザインに配慮されている。また、手書き文字を想定した部分では、小学校と同じ書体が使用されるなど、視認性を高め、書きやすさに配慮されている。	○カラーユニバーサルデザインに配慮されている。また、判別しづらい色遣いを避けたり、手書き文字に近いフォント2種類を使い分けたりするなど工夫されている。	○カラーユニバーサルデザインに配慮されている。また、オリジナルの手書きフォントによる見本英文が用意されているなど、書きやすさにも配慮されている。	○色覚等の特性を踏まえたカラーユニバーサルデザインやユニバーサルデザインフォントに配慮されており、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮されている。	○ユニバーサルデザインに配慮されている。また、独自に開発された新しいアルファベットフォントが採用されているなど、生徒が学習しやすいよう工夫されている。	○ユニバーサルデザインフォントに配慮されている。また、メディア・ユニバーサル・デザイン協会（MUD）の認証を申請するなど、誰もが読みやすいよう配慮されている。
○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。	○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。	○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。	○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。	○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。	○製本は堅牢で、十分な耐久性を備えている。
○再生紙や植物油インキが使用されている。	○環境に配慮された紙や植物油インキが使用されている。	○原料や製法に配慮した環境にやさしい紙や植物油インキが使用されている。	○再生紙や植物油インキが使用されている。	○環境に配慮された紙や植物油インキが使用されている。	○再生紙や植物油インキが使用されている。